

元気が消えた&失望感拡がる

H20 年度予算と野坂市政

財政難に名を借りた消極的な予算編成！

平成 20 年度予算編成は、財政健全化団体から逃れたいための予算編成という市民には見えない意図が働いている。投資的経費は、前年度と比較し 44%マイナスの 16 億円を削減し約 21 億円で近年では最低。地方債は、前年比 13.4%マイナスの約 5 億円を削減し 30 億円にとどめ、中期財政計画に掲げた 41 億円を下回る結果となった。

市長は、投資的経費の大幅削減について「前年度と比較し、大型事業が完了した為」との提案理由。この説明だと各部の予算要求段階で、住民ニーズに応える予算要求が各部からなかったことを意味する。予算編成方針で各部の方針と政策を求めながら、「総合的、横断的な調整」の段階で、各部がまとめた方針と政策がどのように調整されたのか、市民にも、我々議会にも情報は皆無である。

市長の職責が予算編成に表れていない！

市長が予算編成における国・県への働きかけは、皆無に等しい。市長の出張記録から、年間 1~2 回程度に過ぎない。この結果が国・県補助事業で前年度 25 億円を 56%マイナスの 15 億円減の 10 億円という大幅削減。

出張旅費を大幅削減&「インターネットで情報収集」！

例えば、部長旅費は、全体で年間 20 万円、一人当たり 2 万円。市長は、本年度の旅費の大幅削減に、「インターネットで情報収集も可能」との見解。国・県との政策協議は、単年度の事業効果だけでなく、次年度以降の市財政運営の「資源」となる。「インターネット」での国・県との政策協議は不可能。しかも、米子市の熱意や誠意までは伝わらない。

米子市は、防衛省と「美保基地協定」を結んでいる。市長は、この補助事業を積極的に市の施策に反映する努力を怠っている。

H20 年度の借地料の減額合意額 170 万円、減額目標額の 4.13%

本年度の借地料の減額交渉は、48 件の内 25 件が合意、未合意は 23 件。H20 年度の減額目標額は 4,108 万円。交渉合意の削減額は 170 万円。市長は、この現状について「相手方から合意を得ていない」と地権者側の責任転嫁とともとれる発言をしている。

市長は、一回地権者に出かけただけで「返事」も確認していない。不動産鑑定士の意見書も準備せず減額交渉に臨む姿勢は、職責放棄に等しい。

H20 年度の市の基準値と契約額の差額は、約 8,000 万円になる。全てが血税である。

今、市民の多くは、閉塞感漂う野坂市政に、強い不信感と不満をあらわにしている。そして、県西部中核都市として、国・県にも顔の見える米子市、明日に向かって生き生きと躍動感のある米子市、誰にも公正・公平な米子市、を望み、求めている。